

⚡ バッテリー上がりによる海難が増加しています!

要注意

● 海上ではバッテリー上がりになると帰港できない状況になります

事故事例 海上で機関を停止し、漁探や電動リールを使用しながら釣りをしていたところ、バッテリーが上がり帰港できなくなった(巡視艇で曳航救助)。

▶ 平成27年は33件、平成28年(6月まで)はすでに22件発生!

⚡ バッテリーのチェック方法について

● 出港前には必ずバッテリーのチェックをしましょう!

ケーブル端子接続部の緩みや腐食の点検

電圧の確認(バッテリーチェッカーで確認! : 12.6V以上で良好)

機関始動時の音、始動具合の確認

液量の確認(液量をUpper LevelとLower Levelの間に保ちましょう)

電解液の比重確認(1.25以上で良好)

、については、メンテナンスフリーのバッテリーでは点検できません



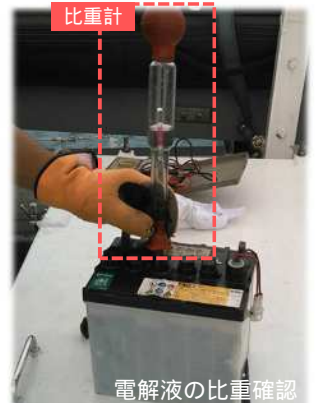
端子接続部の確認



電圧の確認



液量の確認



電解液の比重確認

● おかしいなと思ったら・・・

▶ 充電や蒸留水の補充、バッテリーの交換を行いましょう!

作業を行う際は、バッテリーの取扱説明書に従って作業しましょう。
メンテナンスフリーのバッテリーには、蒸留水の補充はできません。

⚡ バッテリーの交換時期等について

● バッテリーの寿命について

▶ 概ね2～5年ほどが寿命といわれていますので定期的に交換しましょう!
使用頻度が少ない船舶のバッテリーは、2年以内で劣化するケースもあります

● アクセサリー専用のバッテリーを搭載することを推奨します。

▶ 「ジャンプスターター」(バッテリーが上がった際機関を始動できる機器)を船内に備え置くことも有効です。